

令和6年度 自己点検・評価 報告書

2025年5月20日

日本語教育機関名 : 福島日本語学院
実施責任者 : 理事長 古関 憲子
実施者 : 経営管理事業部 古関 友和
教務主任 鈴木 友章
庶務主任 バンダリ 美香子

1	教育理念・目標	評価
	教育理念及び目標について、職員室内に掲示し周知を行っているが、学生にまで周知されているとは言い難い。今後は学内での掲示を増やすとともに、ホームページへの掲載も行う。	B
2	学校運営	評価
	告示基準に則り運営している。 今年度は登録日本語教員資格取得に必要な試験、講習等に係る費用の助成を実施した。 諸規定の整備について、慣例的に引き継がれて規程に含まれていない内容等もあったため、次年度中に規程の整備を行う。	A
3	教育活動	評価
	教育目標達成に向けた計画に沿って、安定した教育活動が実施されている。 授業毎に学生自身での自己評価をさせている。今後自己評価を成績に反映させるように調整中。 生徒の成績評価は適切に行われている。	A
4	学修成果	評価
	各種試験の結果や進学状況など、教員内で漏れなく情報共有されている。 卒業生の7割超が日本語能力試験 N3 以上を取得した。また、ほとんどの卒業生が希望する進路に進むことができた。	A
5	生徒支援	評価
	進路指導は計画的、体系的に行われている。 出入国在留管理局から適正校クラス I と選定されており、今年度のビザ更新においても、資格外活動違反等で指導を行った学生はならず、地道な指導の成果の表れであると思う。 本学院では約9割の学生が学生寮に入居しているため、寮にWi-Fiを完備し、自宅でもオンラインを利用し自宅学習に取り組めるよう環境を整えている。	A
6	教育環境	評価
	出入国在留管理局の現地調査において図書室の整備を指摘され対応した。 次年度から授業で正式に「多読」を取り入れるため、多読教材を整備した。	B
7	入学者の募集	評価
	現地での面接試験を中心に適切に選考を行っている。やむを得ない場合はオンライン面接を利用して選考を行った。	A

8	財務	評価
	新型コロナによる入学者数の偏りなどが改善しつつあり、今後は安定した経営の継続に尽力する。	A
9	法令順守	評価
	関係法令を遵守し、関係省庁への報告も遅滞なく行っている。 プライバシーマーク取得企業として個人情報保護体制を整えている。社員へは個人情報保護教育を年1回行っている。	A
10	地域貢献・社会貢献	評価
	地域イベントへの参加などを通し、国際交流、多文化共生への理解を深めてもらえるよう努めている。 地域で行われた日本語学習支援者育成講座に生徒がボランティアとして参加した。 今後もより多くの生徒にこのような機会を提供していきたい。	A

総括	
<p>今年度は認定日本語教育機関の認定申請を視野に入れ、業務改善に取り組んできた。今後も細かな修正をしながら、認定申請の準備を進めていく必要がある。 各項目の分析を踏まえ、以下を次年度の課題として掲げる。</p> <p>① 教員の研修機会の充実 ② 生徒の個人記録のITC化 ③ 教務規程の整備</p> <p>今後も教育の質向上のため、改善を継続する。</p>	

評 価	
A	達成している
B	概ね達成している
C	対応できているが、課題が多い
D	対応できていない